

法悦の民・ネパール

岐阜県博物館友の会 副会長 兼松 克司



趣味であるカメラと仏教徒であるために、お念仏に導かれ歴史探訪の旅によく出かけていました。コロナ禍前の2018年1月にネパール探訪で印象に残っていることを紹介します。

8000m級の山々が連なる世界の屋根ヒマラヤ山脈の麓にあり、人口約3100万人。法悦^{ほうえつ}（法の教えを聞いて生じる、無上の喜び）の民が暮らすネパール連邦民主共和国の首都カトマンズ（標高1330m）と、お釈迦様の生誕の地ルンビニに行ってきました。

カトマンズ

2015年4月25日のM7・8の大地震で、耐震性がないレンガ造りのため、660万戸の家が倒れ約8500人が死亡、多くの世界遺産も倒壊しました。ヒマラヤ山脈の麓で、平野が少なくて段々畑での農作業のほか唯一の頼みは観光客であるものの、人々はヒンズー教（約81%）、仏教（約11%）、イスラム教（4%）の教えに従い慎ま

しく、力強く復興・復旧に従事しておられました。「ナマステ」と合掌して挨拶をすると、素朴で人なつこい微笑みで合掌して「ナマステ」と挨拶してもらえ、心が安らぎました。あまたの民族、あまたの神仏が暮らす街、カトマンズで朝夕祈りを捧げる法悦の民と、インフラの遅れから街並みが混沌としている中で素朴な暮らしに、こころの原風景を感じました。写真はネパールで最大の仏塔で、チベット仏教の巡礼地でもある寺院で五体投地をしてお祈りを捧げる僧を撮影しました。



ルンビニ

首都カトマンズから約370km西にあります。2500年ほど前のこと。仏伝によると沐浴の池の中で産気づかれたマヤ・デヴィ夫人は、池から北へ20歩歩かれ無憂樹^{むいうじ}の枝に右手をかけた時に、お釈迦様が右脇より誕生され、お釈迦様はそのまま7歩運び「天上天下唯我独尊」と語られたことです。ルンビニ園で当時の状況が再現されており、撮影しました。右の婦人は妹さんと奥にお釈迦様が右手を挙げておられます。



コロナ禍で世界的なパンデミックとなり、どこへも行けない4年間でした。その間に歳を重ね、体力的にも厳しい環境になってしまいました。また、歴史探訪の旅ができることを楽しみに岐阜県博物館友の会とともに「今を大切に」過ごしていきたいと考えています。

企画展の紹介

博物館・文化財保護センター連携企画展 「寺院跡からみた岐阜の歴史 ―古代・中世寺院跡総合調査の成果より―」

岐阜県博物館 学芸部 近藤 大典

平成30年度から令和4年度にかけて実施された岐阜県古代・中世寺院跡総合調査によって、県内では1,918か寺の古代・中世寺院が確認されました。一方で開発や適切な保護を目的として、古代・中世寺院跡を対象とした発掘調査が実施されています。それらの調査によって、寺院跡からみた県内の古代・中世の様子が少しずつ明らかになってきました。

本連携企画展では、岐阜県古代・中世寺院跡総合調査の成果報告と、県内の主な寺院跡の発掘調査の出土品を展示し紹介します。

さて、寺院というと例えば壮大な伽藍^{がらん}とそれを構成する塔や金堂(本堂)などの建造物、様々な仏像などを思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、それらが失われ、遺跡となった寺院跡からは何が見つかるのでしょうか。

古代において、寺院を表す言葉に「瓦葺」^{かわらぶき}があります。瓦は仏教とともに我が国に入り定着していったものの代表で、古代寺院の遺跡からは軒を飾った軒丸瓦、軒平瓦をはじめ屋根の大半を覆った丸瓦、平瓦などが大量に出土します。布目瓦が見つかる場所は古代寺院跡とされるように、瓦は古代寺院跡から見つかる遺物の代表と言えます。

では中世はどうでしょうか。中世寺院にも瓦が使われましたが、これまでの県内の発掘調査では仏教行事や墓、経塚などで使用した陶磁器が目立ちます。また寺院にかかわる人たちが飲食を伴う儀礼で使用したと考えられる土師器の皿も多く見つかっています。

瓦や陶磁器、土師器などの遺物以外にも、建造物の基壇やそれらを配置するために行われた土地造成の痕跡が遺構として現地に残されています。

このように建造物や仏像などが失われてしまっている、現地に残された遺構・遺物から、往時の様子をうかがうことができます。

ぜひ会場に足を運んでいただき、紹介する古代・中世寺院跡の調査成果から、改めて岐阜の歴史について考えていただければと思います。

また、講演会・講座として岐阜県古代・中世寺院跡総合調査成果報告会、シリーズ講座「岐阜県内山中寺院跡について」を、現地見学会としてけんぱく教室「古代の寺跡を歩く 国史跡弥勒寺跡見学会」を開催します。展示とあわせて古代・中世寺院跡から岐阜の歴史に思いをはせていただく機会となればと考えています。



▲各務原市山田寺跡出土軒丸瓦(各務原市教育委員会提供)



▲瑞浪市笹山遺跡出土経箱紐金具(瑞浪市提供)

令和6年度移動展

「UKIYO-E 多岐多様」の開催

岐阜県博物館 学芸部 松井 絵里子

令和6年4月6日から6月9日まで飛騨高山まちの博物館において「UKIYO-E 多岐多様」を開催しました。今回は、美濃・飛騨にゆかりのある浮世絵を前期(4月6日～5月6日)、後期(5月8日～6月9日)に分け計80点を展示し、高山を観光する国内外の多くの方に好評いただきました。

浮世絵といえば「絵師」に注目が集まりますが、絵師の表現を再現する「彫師」や「摺師」の技術も鑑賞のポイントです。後期に展示した「豊臣昇進録大徳寺」(月岡芳年)ですが、着物の文様が浮き上がる「正面摺」の技術が使われており、彫師や摺師の細かなこだわりが浮世絵の魅力をさらに引き立てています。このように浮世絵は「絵師」「彫師」「摺師」、販売する「版元」の四者によって成り立つ芸術です。現在、人文展示室内にて浮世絵を展示しています。当館の所蔵作品を多く触れていただけるよう今後も展示替えを行っていきます。ぜひご覧ください。



▲月岡芳年「豊臣昇進録 大徳寺」

マイミュージアムギャラリー 第4回展示

「岐阜提灯 絵付け展」

令和6年10月12日(土)～11月17日(日)

岐阜県博物館 学芸部 石井 宏明

令和6年度の第4回目は、野原明美さんによる「岐阜提灯 絵付け展」を開催します。

本展示は、岐阜の自然が育んだ伝統工芸品である岐阜提灯を中心に、絵付け道具やアトリエ風景の写真を展示します。伝統的な置き型提灯である大内行灯や、おうちあんどん現代の家宅様式に合わせた現代行灯など様々な提灯が並びます。

絵付けという仕事に携わって30余年の野原氏が下描きなしで描いた美しい植物と、和紙や絹、竹ひごから溢れる優しい灯りが癒しの空間を提供します。

また、岐阜提灯や伝統工芸品を身近に感じてほしいという思いから、絵具や筆を使って絵を楽しむ絵付け展を開催します。



▲作品例

植物の種子散布

—可愛い子には旅をさせよ?—

岐阜県博物館 学芸部 松久 聖子

種子の時期、それは、植物が個体として、生涯で唯一動くことのできる時期です。植物は、一度定着すると、生涯その場所から動けません。種子の時期にどこに行くか、どこで芽生えるか。そのような種子での移動が、その後の一生を決める最初で最後の旅になります。

種子を散布する親植物は、一般的に、子(種子)をできるだけ親元から離そうとします。なぜなら、親植物のまわりは、その植物種特有の病害生物や天敵の密度が高いため、親植物に近い場所で芽生えた個体ほど、死亡率が高くなるからです。親植物は、子(種子)ができるだけ親元から離れた場所に移動できるよう、種子に、分散距離を大きくするための様々な工夫を施しています。

一方で、ただ、親元から離れた場所に行けばよいというものでもありません。その場所が、芽生えや生存に適した環境でない限り、芽生えてもすぐに死亡したり、大きく成長していくことができません。種子の時期が、個体として唯一移動できる時期だとしても、行く先を自由に決めることはできないのです。そこで重要になるのが、種子がいかに広範囲に分散されるかです。広範囲であれば、様々な環境が存在し、その中のどこかには、無事に芽生えて成長できる場所があるはずだからです。

今、ある植物体が生えている場所。そこは、逆から考えれば、その植物種が芽生え、生存できる場所だったということです。幸運にも恵まれた場所にたどりつくことのできた種子が、様々な逆境に耐え、力強く成長した姿を、私たちは見ていることになります。

この秋、ぜひ、様々な種子に施された工夫や、その植物が生えている場所に、思いを馳せていただけたらと思います。



▲オオモミジの種子 風で飛ぶための翼(よく)がついている。

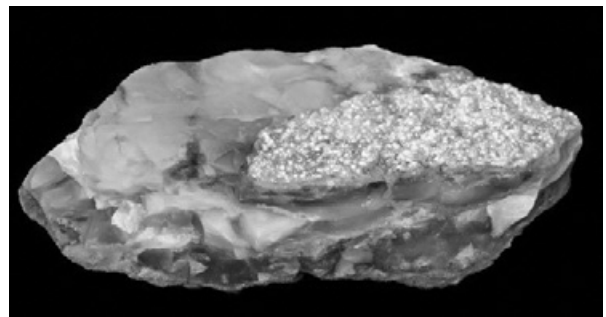
「新収蔵資料紹介」

岐阜県博物館 学芸部 武藤 正樹

令和5年度企画展「美しき鉱物の世界」に合わせ、国内外から収集を行いました。また、岐阜県・愛知県を中心に採集された岩石鉱物の寄贈もあり、収集資料をより一層充実させることができました。今回は、新収蔵資料のうち、企画展で特に反響が大きかった鉱物を2点紹介します。

北海道石 【 Hokkaidoite 】

2023年1月に国際鉱物学連合にて命名承認・登録を受けた北海道石。発見場所のひとつである鹿追町では、以前から火山中腹に産するオパールが紫外線照射によって発光することが分かっていました。北海道石はこの中に含まれており、紫外線を当てることで黄色～黄緑色に発光します。



オケナイト 【 Okenite 】

オケナイトは、グリーンランドで発見された鉱物で、針状の結晶が放射状に集まり、綿のボールのようになっています。また、フワフワとしたウサギの毛のような見た目から「ラビットテール (ウサギのしっぽ)」という別名もあります。



会員の声

博物館と私

岐阜県博物館 友の会 Y・Y

私は三重県鈴鹿市神戸^{かんべ}というところに住んでいます。地元にある神戸城は岐阜城と同じく織田信長・織田家にゆかりのある城です。この城は信長の三男信孝の城と知られています。少しのご縁があるだけかもしれませんが、ちょっとした神戸の自慢です。

また、母の実家の近くの愛知県知多半島の野間大坊^{のまたいぼう}には信孝の墓もあり、信孝が自害したお寺もそばにあります。山川出版社の『〇〇県の歴史散歩』という都道

府県別にその歴史を紹介している本にも載っています。三重、愛知、そして今度は『岐阜県の歴史散歩』にも目を通して、自分の知識をさらに深くしていくのが自分の理想とするところです。

友の会探訪の旅でMieMuを訪ねる旅の案内がありましたが、私はMieMuが出来る5年ほど前から完成後5年ほどの合計10年近く、美術館や博物館、資料館などを地元三重県中心にあちこち巡ってきました。地域ごとに様々な歴史や文化があり、それらを見聞することがサラリーマンをやめた後の生きがいにもなっていました。一昔前の思い出でもあります。

皆さまもライフ・ワークを見つけて日々有意義に送られることを願っています。

会員の声

日本とオランダの友好関係に寄与する アジサイ

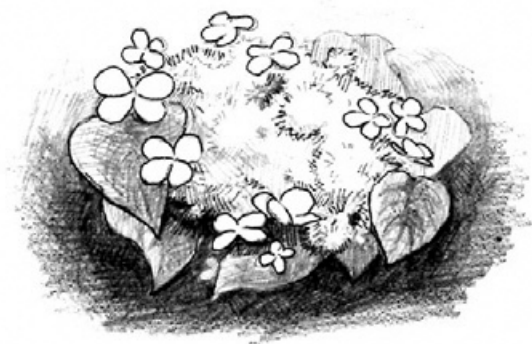
岐阜県博物館 友の会 興 英樹

百年公園の遊歩道を歩いていると、多くのアジサイが植えられていて、梅雨時、花菖蒲とともにアジサイが美しく咲き誇っているのに出会います。よく見ると花の咲き方や大きさなど様々です。山の中の日陰に小さめのコアジサイが、遊歩道の横にはガクアジサイ、ホンアジサイ、中には西洋アジサイが咲いています。

幕末、長崎の出島にシーボルトがオランダ商館付け医師として滞在していました。滞在中に、多くの植物採集とともに調査を行いました。しかし、1828年帰国直前に、伊能忠敬の『大日本沿海輿地全図』などを持ち出そうとしたことなどで国外追放になりました。シーボルトは帰国後オランダ・ライデンに日本博物館を建て、そこを拠点として持ち帰った日本の植物を

ヨーロッパ各地に運び、日本植物の園芸ブームを引き起こしたと言われます。ライデン大学植物園にはシーボルトが持ち帰ったアジサイ(オタクサ：日本人妻の名前)などが植えられていて、手厚く保護されています。

国立歴史民俗博物館の「くらしの植物苑」ではライデン大学植物苑から寄贈された、シーボルトがオランダに持ち帰った種子から育った苗木が生育されており観賞可能です。



「2024 教員のための博物館の日」を開催

岐阜県博物館 学芸部 星野 友多

7月24日（水）～7月26日（金）の3日間、国立科学博物館との連携で「2024 教員のための博物館の日」を実施しました。本事業は、学校の先生方に「博物館に親しみをもってもらうこと、博物館の学習資源を知ってもらうこと」を目的としています。今年度は49名の教職員、教育行政関係者の方が来館され、学芸員のテーマ解説（「植物の生活と工夫」「標本の話」「岐阜の手取層群」「旧徳山村民家見学」「戦国時代の岐阜」）を聞いたり、体験活動（「化石レプリカづくり」「葉脈標本づくり」）を行ったりしていただきました。



▲解説員解説「恐竜の話」の様子

「教員のための博物館の日」は、今年度で8回目の実施となります。回を重ねるごとに認知も広がっているようで、参加された先生方から「毎年楽しみにしています。」「今年は面白そうな解説がたくさんあったので、2日間参加しました」など、嬉しい反応をいただくことができました。また、愛知県から参加される先生方が約3割と、岐阜県博物館の魅力を県外に広めるきっかけにもなっています。本事業は来年度も実施予定です。友の会の皆様におかれましても、教育関係者のお知り合いの方がみえましたら、ぜひお勧めいただけると幸いです。

岐阜県博物館からのお知らせ

10月～2月の展示・行事のお知らせ友の会事務局からのお知らせ

- ◆特別展「ポケモン化石博物館」 ～10月27日（日）
- ◆博物館・文化財保護センター連携企画展「寺院跡から見た岐阜の歴史」
11月9日（土）～1月13日（月・祝）
- ◆マイミュージアムギャラリー展
「岐阜提灯 絵付け展」
10月12日（土）～11月17日（日）
「古製^{こぎれ}いろいろ」
11月30日（土）～1月13日（月・祝）
- 博物館・図書館連携企画展
「美しい鉱物の世界」 1月5日（日）～2月19日（水）
※岐阜県図書館で開催
- ◆施設設備改修に伴う臨時休館
1月14日（火）～3月17日（月）

友の会事務局からのお知らせ

★令和6年度後期友の会の主な活動について

- 会 議 ・11月14日（木）秋季理事会
・3月8日（土）会長・副会長会議
・各種委員会

★「七草がゆを食べよう」（中止）

★探訪の旅について

宿泊探訪の旅「（仮題）四国愛媛高知の旅」

2月4日（火）～6日（木）（予定）参加者募集中！

★博物館の展覧会や催事を知人や友人に紹介するためチラシやポスターを希望される方は友の会事務局までお問合せください。

★会報への寄稿をお待ちしています。